

科学触れて感じて



同じ温度のお湯に手を入れる参加者＝岡崎市の岡崎盲学校で

視覚障害のある子どもたちに科学を体験してもらう出張授業「科学ヘジャンプ」が十七日、岡崎市の岡崎盲学校で実施された。愛知、岐阜県の小学一年生から高校三年生計二十九人が参加した。

岡崎盲学校で出張授業

自然科学研究機構・生理学研究所（岡崎市明大寺町）の富永真琴教授の授業は唐辛子やミントが題材。子どもたちは、唐辛子に含まれるカプサイシンは「熱い」、ミントに含まれるメントール（メンソール）は「冷たい」と感じるセンサーを刺激することを学んだ。

（鎌田旭昇）

東海地区の盲学校教師による実行委員会が二〇〇八年から主催しており、八年回目。この日は八つの授業があり、子どもたちはグループに分かれて授業に臨んだ。

右手の甲にカプサイシン、左手にメントールを塗り、同じ温度のお湯に両手を入れる実験も。子どもたちは「お湯の中では右の方が熱く感じた。お湯から出だすと、左手が冷たく感じる」と楽しんでいた。

児玉康一・実行委員長は「普段学校ではできない体験を企画した。科学に興味を持つてもらえた」と話した。